



あいちゃん、土壇場でNIB王

銀杏がたわわに実る板橋区立平和公園で、9月13日（日）第二十一期 NIB 王戦が開催され、あいちゃんが、鉄人後藤、だいちジャパンを退け、見事第二十一期 NIB 王の栄冠を勝ち取った。6月のゆりちゃんに続き、今期は女流の総合優勝が相次ぐ。また、この日特筆すべきは、すべての表彰者が女流だったことだ。まさにレディースデー、女流が強いと面白い。もっともっと盛り上げてくれい。

あいちゃん、おじさん達はうれしいよ～

あいちゃんがおじいちゃんと初めて顔を見せたのは、小学生の高学年だったはずだ。初めてとは思えないほど、人の心の中にすっと入ってくる不思議な子だった。そのうち、一人で来て楽しそうに遊んで一人帰って行く。女の子では珍しいタイプで、自立している子だと感心していたものだ。そのあいちゃんが力をつけ、7月号で期待した通り、ついにやっつけてくれたのだ。

松ちゃん、マックス、永世はおあずけ

参加者が42名、その中から準決勝に進めるのはわずかに9人、ベテランといえどもむずかしい戦いだった。だから、永世のかかった松ちゃんも、先月優勝のハルクも予選落ちた。準決勝に残ったのは、予選トップ通過のあいちゃんを筆頭に、鉄人後藤、岩坊、ほん魂六角、マックス吉岡、だいちジャパン、ゆりちゃん、まみい、そなっちだ。もう一人永世のかかったマックスが三連覇をかけ挑んだが、鉄人後藤の前にわずかに届かず、次回以降に持ち越しとなった。

使ったベーは N・I・B の『I』だった

そして、決勝に進出したのは、あいちゃん、鉄人後藤、だいちジャパンだ。前半3回戦を終え、だいちジャパンが12ポイント獲得しリードする。すると、中盤であいちゃんが連続得点で15ポイント上げ逆転する。しかし、終盤にだいちが9ポイント加点し再逆転するめまぐるしい戦いとなった。そして迎えた最終8回戦、わざと床はずしをしないよう審判から注意を受けただいちが、正々堂々と床入れすると、あいちゃんベーがそれを見事にとらえる。再々逆転だ。床入れの前に数回ジャンプし緊張をほぐすあいちゃん、そこか



ゆりちゃん、あいちゃん おめでとう！



らの集中力が素晴らしい。キャプテンで得点倍付け、おつりがくるほど加点し、初栄冠を勝ち取った。おめでとう、あいちゃん！ちなみに、この日あいちゃんが使ったペーは、『I』でした。在庫の山と化し、誰にも相手にされず、後ろめたい気持ちでひっそり潜んでいた『I』ペーを、檜舞台に登場させ、優勝ペーという名誉を与えてくれたのもあいちゃん。『僕だって勝てるんだ』と、まるで『I』ペーが叫んでいるようでした。



子ども王はゆりちゃん、女流もあいちゃん

準決勝に進んだ子どもは、ゆりちゃんとそなつちの二人。そなつちも奮闘したが、ゆりちゃんがキャプテンで得点を伸ばし、子ども王となった。勝負強さは相変わらず、今期だけで4回目の受賞となった。そして、女流王はもちろんあいちゃんだ。



ガチホンはつぐみちゃんが初の全部取り

いやーな動きのホンコペーで、つぐみちゃんが優勝だ。しかも対戦相手の顔ぶれがすごい。松ちゃん、ダーリン、上浦パパ、とーさん成田、平井ちちだ。まあ、よくぞこれだけのメンツに勝てたものだ。おめでとう、つぐみちゃん。

名人戦九月場所はマックスがトップ

名人戦は終盤を迎え、トップは88点で依然マックス、2位に鉄人後藤、3位ハルクという順だ。しかし、その差はわずかに1点ずつ、残り対戦数が少なくなり、最終十月場所で誰が参加するかにより、順位は流動的だ。スペシャルポイントを除く勝点では、ハルクが82点でトップだけに、いかに決勝トーナメント進出が大切かということがお分かりだろう。



バロンドールもマックスが依然トップ

1位マックス、2位鉄人後藤、これが今期の流れなのだろう。しかもその差はわずかだ。残りのタイトルが4つあるので、数字の上ではいくらでも逆転が可能だろうが、相手もあることなので、なかなかそうはならない。毎回少しでも加点しておくことだ。

